

説明資料 第1稿)での記載箇所	章項目	5.6.1	ページ	p.26	行	3行目
事業名	既設ダム水位移行期等の放流方式検討		河川名	既設ダム		
府 県	1府3県	市町村	ダム所在市町村	地先	ダム所在地先	

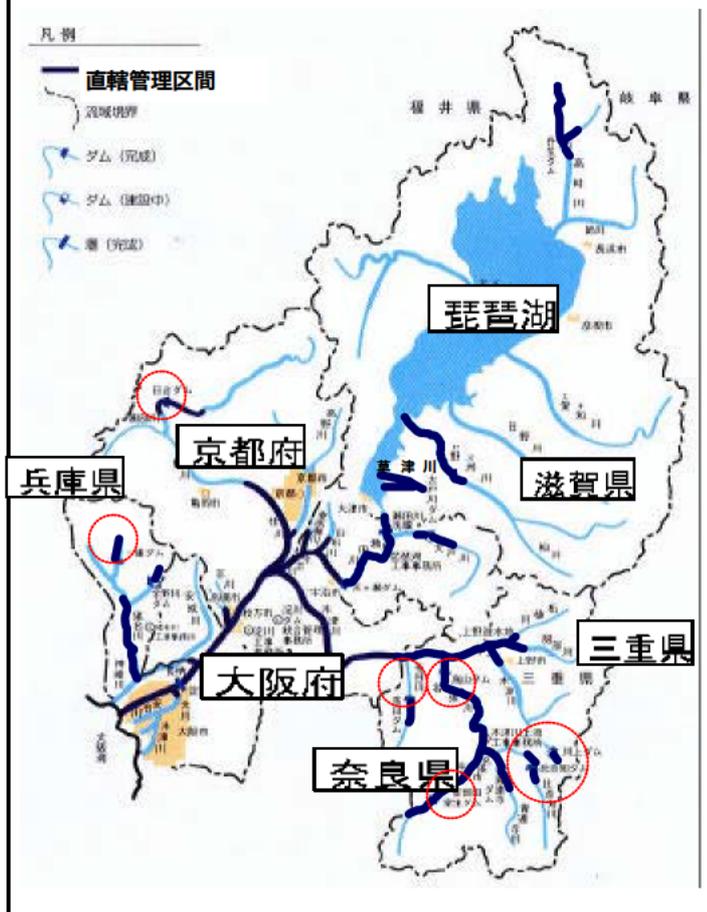
●現状の課題

水資源開発施設による流水の貯留や流量調節は、自然のリズムにあった川本来の水位変動や錯乱が減少する場合も見受けられ、河川の生態を改変している。

●河川整備の方針

できるだけ自然流況に近い流量が流れるように、治水利水への影響を考慮した上で、検討を行う。

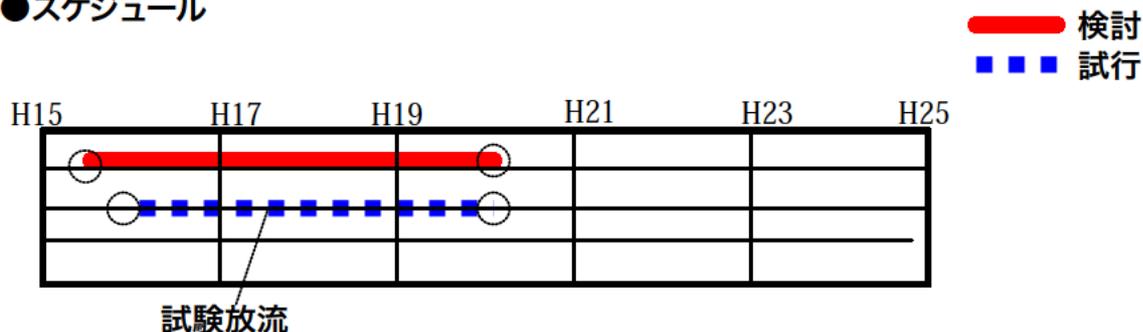
●位置図



●具体的な整備内容

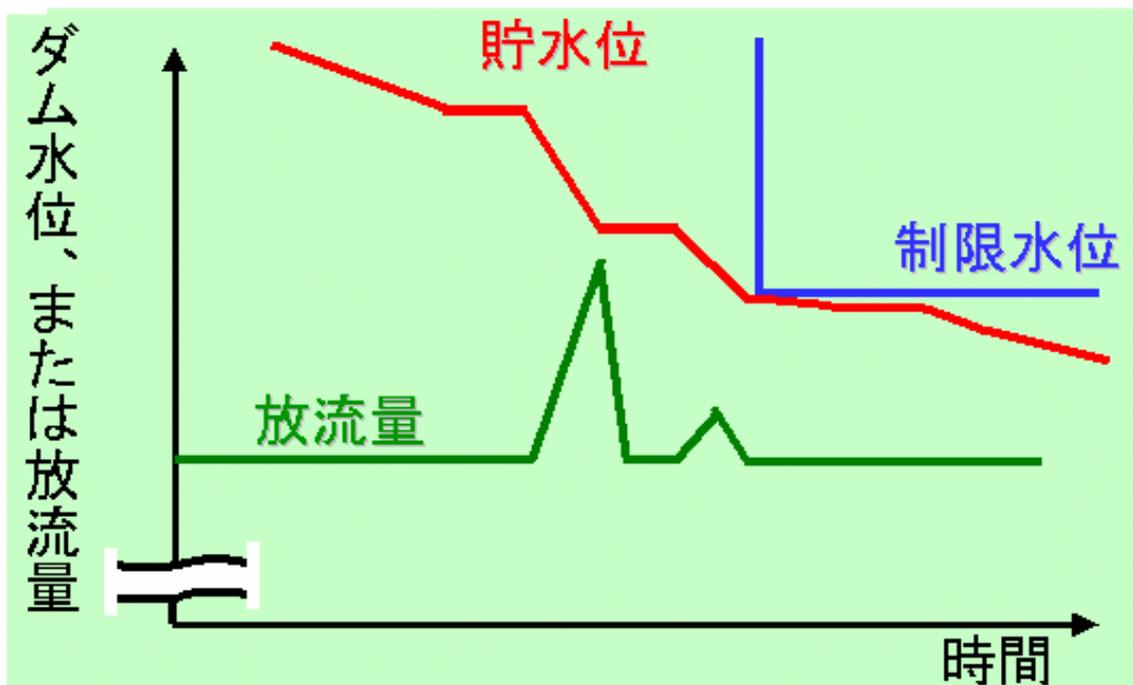
非洪水期から洪水期の移行期間等において錯乱機能を発生させる放流方式の検討。

●スケジュール



水位移行の事例

ダムの非洪水期から洪水期への移行状況の一例



検討手順

ダム下流において、



非洪水期から洪水期の移行期、定量放流ではなく、学識経験者の意見を聞いた上でフラッシュ放流の実施



付着藻類、植生、底生生物を調査



結果をもとに学識経験者の意見を聞く

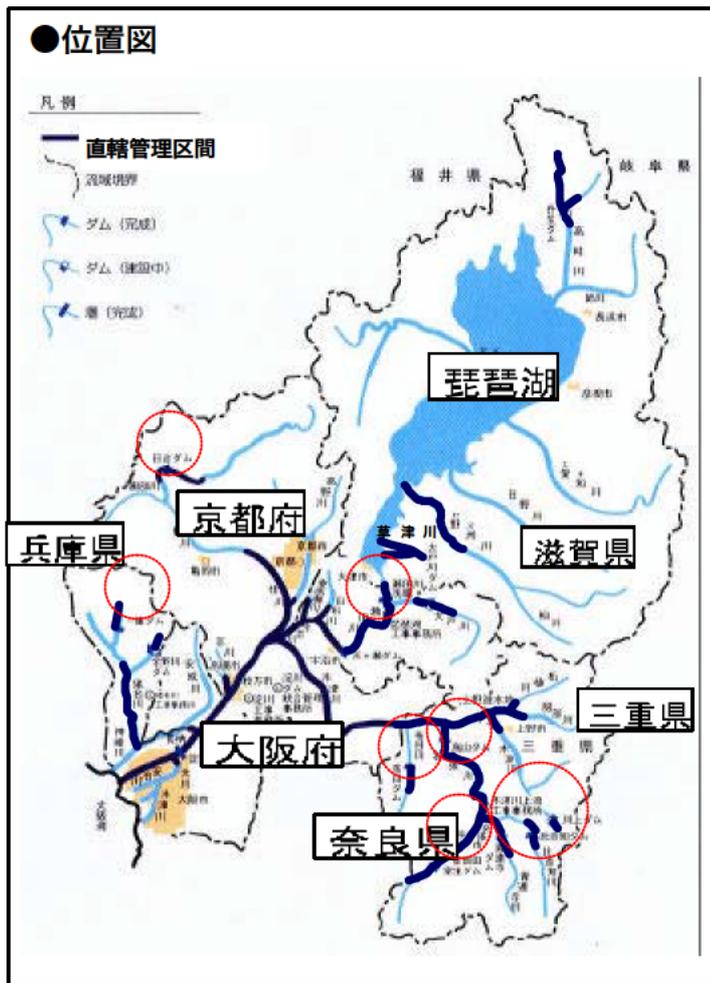


以後、5年程度繰り返し、移行期の放流方式の確立

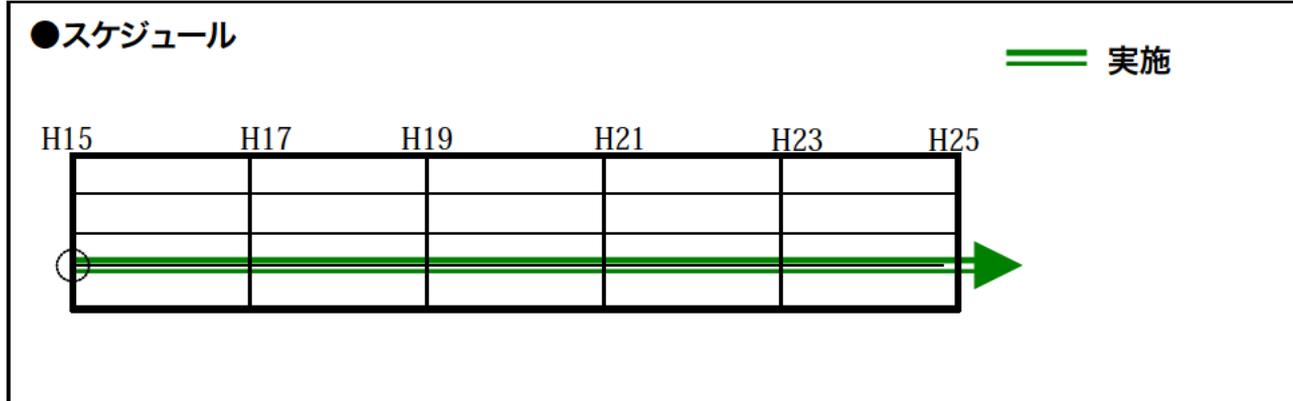
説明資料 第1稿)での記載箇所	章項目	5 6 1	ページ	p.26	行	5行目
事業名	既設ダムの情報公開、放流時の安全確保		河川名	既設ダム		
府 県	1府 3県	市町村	ダム所在市町村	地先	ダム所在地先	

●現状の課題
ダム放流警報時に避難しない河川利用者がいる等の問題がある。

●河川整備の方針
ダム放流時における下流安全対策の充実を図る。



●具体的な整備内容
ダムデータの情報公開・広報、わかりやすい放流警報の工夫、監視カメラの設置などの整備を実施



●説明図

インターネット等での公表

◆ダムはさまざまな情報を収集・分析していますが、
これまではあまり公開されていませんでした。
—みんなが知りたいダムのこと—

アクセス
してみよう!

項目	数値	単位	項目	数値	単位
貯水量	100	立方メートル	貯水量	100	立方メートル
ダム貯水量	100	立方メートル	貯水量	100	立方メートル
河川水位	100	メートル	貯水量	100	立方メートル
雨量	100	ミリメートル	貯水量	100	立方メートル
水温	100	度	貯水量	100	立方メートル

情報提供を
始めている
ものもあります。

<http://www.river.go.jp>

ダムの放流時の安全確保

◆河川利用者に対して、次のような
情報を提供していきます。

避難しよう

これまでの
サイレン

↓

今後は
サイレン +
スピーカ音声放送、電光掲示板、
映像情報等多様な手段を活用。

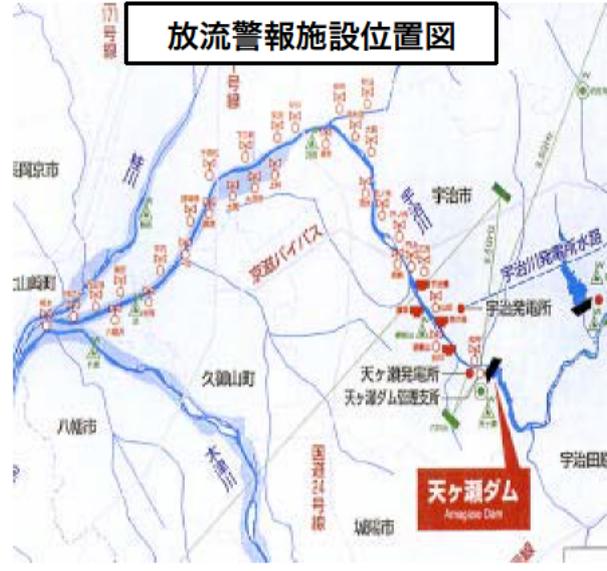
ダムが放流を始めるよ。
早く逃げないと!!

ダムから放流を開始します
この地点の水位は急激に上昇し
ます。危険ですので避難
して下さい!!

携帯電話
携帯電話で
確認しよう!!

映像情報の提供

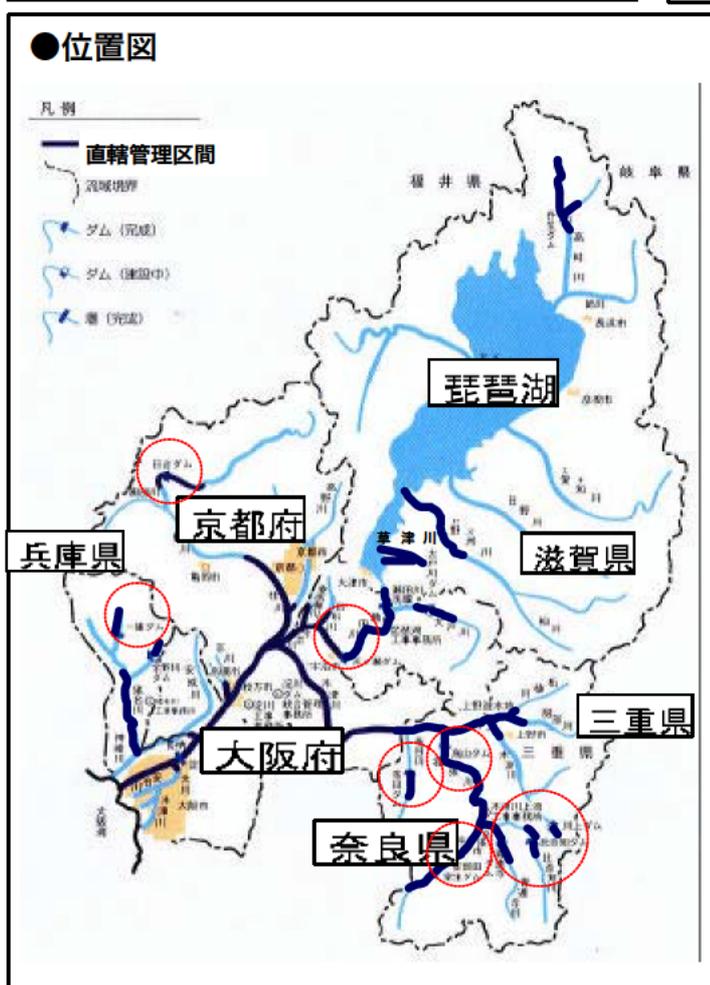
放流警報施設位置図



説明資料 第1稿)での記載箇所	章項目	5.6.1	ページ	p.26	行	7行目
事業名	既設ダムの老朽化施設の補修		河川名	既設ダム		
府 県	1府3県	市町村	ダム所在市町村	地先	ダム所在地先	

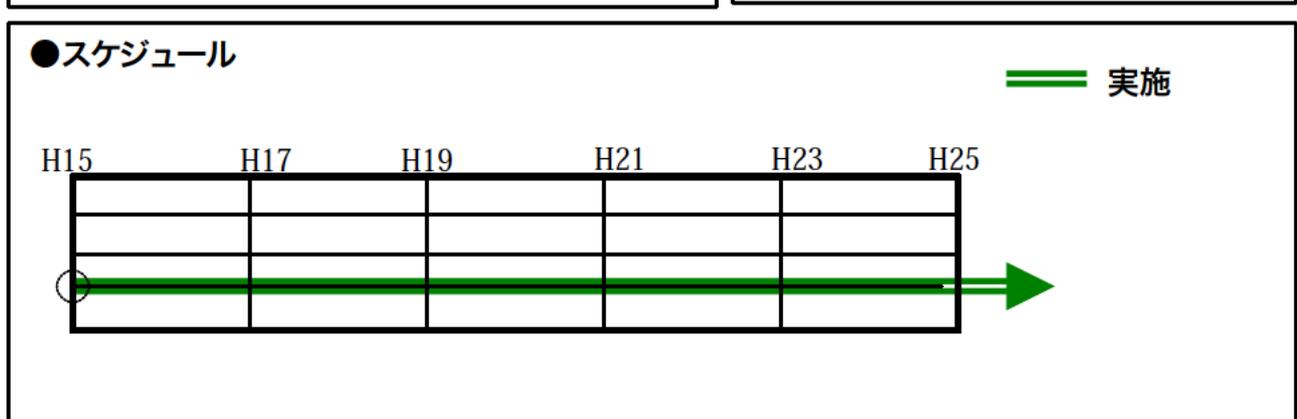
●現状の課題

●河川整備の方針
(施設の維持管理)



●具体的な整備内容
老朽化施設の補修を実施

●事業費
ダム維持管理費
約30億/年 (ダム)



老朽化施設補修例

ゲート塗装の老朽化



管理棟の老朽化による建替え



老朽化の目安

・ワイヤーロープ油	2年
・ゲート水密ゴム	10～15年
・機側操作盤	10～15年
・電動機	20年
・ワイヤーロープ	15年
・ゲート等塗装	5～7年

(一般的な目安であり 現地状況により更新する。)